

# 平成23年度入学生対象

別記様式1

平成23年1月27日

## 主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔教育学部第五類（人間形成基礎系）教育学系コース〕

プログラムの名称（和文）	教育学プログラム
（英文）	Educational studies

### 1. プログラムの紹介と概要

本プログラムは、教育諸科学の体系的知識を提供し、教育に関する高い識見と総合的な判断力をもつ専門的人材の育成をめざす。

教育は、人間と社会のさまざまな要因が複雑に絡み合った事象である。したがって本プログラムは、学生が教育に関するさまざまな理論や思想、事象、課題について、哲学的・歴史的・社会学的・国際比較的視野に立って学習し研究するとともに、教育方法・技術や教育課程、学校経営・教育行財政、社会教育・生涯学習をめぐる具体的問題群についての理論的・実践的検討を行いうるよう構成されている。

プログラム履修後は、より高度な学的探求を行うため大学院へ進学するほか、教職、教育行政職（公務員）、教育分野での国際的な開発協力実践家など、教育科学の専門性を活かせる各種分野で活躍することが、主として期待される。

### 2. プログラムの開始時期とプログラム選択のための既修得要件（履修科目名及び単位数等）

プログラム開始（選択）時期は、1年次である。

### 3. プログラムの到達目標と成果

#### （1）プログラムの到達目標

教育諸事象に対する高い識見と総合的な判断力をもつ教育の専門家の育成をおこなう。そのための到達目標を明確化すれば、以下のとおりである。

- 1) 教育関連諸科学に関する知識の習得と理解
- 2) 教育学の研究手法の習得
- 3) 教育に関する資料・情報・データの収集力と具体的な教育課題に対する分析力・判断力の獲得
- 4) 教育に関する研究開発能力、問題解決・改善能力、政策立案能力の獲得

#### （2）プログラムによる学習の成果（具体的に身につく知識・技能・態度）

※それぞれの学習方法については別紙1に記入。

#### ○知識・理解

1) 教育哲学、日本東洋教育史、西洋教育史、教育社会学、教育方法学、社会教育学、教育行政学、比較教育学、教育経営学、幼児教育学、高等教育学などの教育関連諸科学の基礎を習得している。また、これを支える基礎的教養として、人類や社会が抱える歴史的・現代的課題について、多角的な視点から説明できる。

○知的能力・技能

1) 外国語運用能力、統計分析、観察法、情報処理など、教育学の研究手法の基礎を習得している。外国語運用能力に関しては、外国語を活用して、口頭や文書で日常的なコミュニケーションを図ることができる。

○実践的能力・技能

1) 現代の多様なメディア状況に対応し、図書館、資料・史料館、インターネットなどを駆使して、教育に関する資料・情報・データを収集できる。その基礎として、情報に関する基礎的知識・技術・態度を学び、情報の収集や処理や受発信を適切に行うことができる。

2) 具体的な教育課題に対して、情報収集力や研究手法を応用し、得られた資料ならびに結果を分析的・批判的に吟味できる（メディアリテラシー、クリティカルシンキング）。その基礎として、情報を活用するためのモラルと社会的課題について理解し、説明できる。

○総合的能力・技能

1) 教育諸現象から問題点を見極め、適切な研究手法を適用し、独自の成果として結論を提起できる研究能力を習得している。

2) 研究成果を正確かつ明瞭に発表するための諸技能を習得している。論拠を明らかにした議論や効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

3) 研究成果への自他の評価を踏まえて、教育に関する研究・実践を発展的に継続することができる。

#### 4. 教育内容・構造と実施体制

(1) 学位の概要（学位の種類、必要な単位数）

本プログラムが提供する学位は、学士（教育学）である。その取得には、本プログラムにて実施される授業科目を選択履修することによって修得する128単位を条件としている。その内訳は教養教育46単位、専門教育46単位（うち専門基礎科目16単位以上、専門科目20単位以上）、専門選択科目28単位、卒業研究8単位である。

(2) 得られる資格等

特定プログラムを追加して修得すると、学芸員、社会教育主事、学校図書館司書教諭などの資格が取得可能である。

教育職員免許法に基づいて教職関係科目を併せて修得することにより、中学校教諭一種免許（社会）、高等学校教諭一種免許（公民）を取得できる。

(3) プログラムの構造

※ 体系的に理解できる図を別紙2として添付

教育学プログラムは「教育学についての基礎的知識・理解」「教育学についての基礎的能力・技能」「教育学についての実践的能力・技能」「教育学についての総合的能力・技能」の4ステップから成る。

第1ステップ「教育学についての基礎的知識・理解」では、教育関連諸科学に関する知識の習得と理解を目指す。

第2ステップ「教育学についての基礎的能力・技能」では、外国語運用能力、統計分析、観察法、情報処理など、教育学の研究手法の基礎の習得を目指す。

第3ステップ「教育学についての実践的能力・技能」では、①教育に関する資料・情報・データ等の情報収集力の獲得、および②具体的な教育課題に対する分析力・判断力の獲得を目指す。

第4ステップ「教育学についての総合的能力・技能」では、卒業論文作成を通して、教育に関する研究開発能力、問題解決・改善能力、政策立案能力の獲得を目指す。

(4) 卒業論文(卒業研究) (位置付け, 配属方法・時期等)

教育の専門家には、研究開発能力・政策立案能力が従来以上に求められている。その能力を養うために、教育学プログラムでは卒業研究に8単位を課して大きな比重を置いている。

卒業研究は主に次の2つを通して指導をおこなう。

1) 領域課題演習および課題研究: これらは卒業論文作成につながるモノグラフィー的事例学習の授業科目であり、各指導教員による少人数・個別指導をおこなう。

2) 発表会: 研究開発能力・政策立案能力の習得を証明し表現する機会として、卒業論文の構想発表と最終審査をおこなう。

**【配属時期と配属方法】**

4セメスターに開設される「教育学総合演習A」における研究室紹介および研究室訪問を通して配属についてのガイダンスをおこない、卒業論文指導教員(研究室)を決め、5セメスターから配属する。

5. 授業科目及び授業内容

※履修表を別紙3として添付。

6. 教育・学習

(1) 教育方法・学習方法

知識・理解の習得は、専門基礎科目の講義を中心とする。

統計分析等の研究手法およびメディアリテラシー・クリティカルシンキングの習得は、専門科目の演習等の実践的な教育方法を中心とする。

卒業論文作成を通して、総合的な技能、能力を習得する。

(2) 学習支援体制

○教員による支援

- 1) チューター制度: 1年次から2年次までは、学年チューターが指導する。
- 2) 卒業論文: 3年次から4年次までは、卒業論文指導教員が指導する。
- 3) プログラム教員会: 主として教育学講座の教員が当たり、学生の学習支援体制を作る。
- 4) 講座図書室: 教育学図書室の図書、資(史)料を活用し、学習を支援する。

7. 評価(試験・成績評価)

(1) 到達度チェックの仕組み(科目群としての到達度チェックの仕組み, GPAや学年末総合試験等)

- 1) 個々の授業の到達目標を明示し、求められる知識・理解・能力の達成度を評価する。
- 2) 各学年末に、プログラム登録学生個人毎のファイルを作成し、到達度を評価する。
- 3) 専門基礎科目を履修し終えた2年次末に、教育学に関する知識・理解の習得状況を評価し、卒業研究を具体的視野に入れた指導・助言を適宜行う。
- 4) 最終的なプログラムの到達目標評価は、プログラムの全課程における学習達成度の再吟味に加え、卒業論文の内容と公開の場での報告を審査することによっておこなう。

(2) 成績が示す意味 (到達目標に対してどこまでできたか等)

※ 別紙4 (到達目標評価項目と評価基準の表) に記入。

「基準に達している」は授業内容の6割以上を習得し、継続して学習していけるレベルである。

「優れている」は授業内容の7割以上を習得し、与えられた課題を適切に遂行できるレベルである。

「非常に優れている」は授業内容の8割以上を習得したうえで、自らの見解をもって課題を遂行できるレベルである。

## 8. プログラムの責任体制と評価

(1) PDCA責任体制 (計画(plan)・実施(do)・評価 (check)・改善 (action))

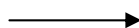
本プログラムは、主として教育学部の教育学講座のスタッフにより遂行される。その遂行上の責任は、プログラム責任者 (教育学講座の主任) にある。計画・実施・評価検討・対処は、本プログラム教員会が行う。なお、プログラム外からの評価検討・対処は、教育学部内の担当部会により進められ、プログラムの到達度が評価され、勧告が示される。

(2) プログラムの評価

- ・各レベルの評価をプログラムにフィードバックさせ、プログラム自体の評価・改善を図る。
- ・プログラム履修をとおして達成された知識・能力が実践的にどのように活かされているか、卒業生の追跡調査により評価する。

## 教育学プログラムの教育・学習方法

## ○ 知識・理解



**身につく知識・技能・態度等**

1) 教育哲学、日本東洋教育史、西洋教育史、教育社会学、教育方法学、社会教育学、教育行政学、比較教育学、教育経営学、幼児教育学、高等教育学などの教育関連諸科学の基礎を習得している。また、これを支える基礎的教養として、人類や社会が抱える歴史的・現代的課題について、多角的な視点から説明できる。

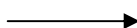
**教育・学習の方法**

教養教育の領域科目・パッケージ別科目および専門基礎科目の講義で知識・理解を深める。その際、各授業科目では講義の他に自己学習、ディスカッション、レポート作成、また簡単なプレゼンテーションなどの課題を課す。また、高学年次では、各自の関心領域や卒業論文の研究テーマに応じた教養教育の授業を受講し、テーマに関する知識・理解を深める。

**評価**

各授業科目で実施される中間試験や期末試験、課題やレポートを通して評価する。

## ○ 知的能力・技能



**身につく知識・技能・態度等**

1) 外国語運用能力、統計分析、観察法、情報処理など、教育学の研究手法の基礎を習得している。外国語運用能力に関しては、外国語を活用して、口頭や文書で日常的なコミュニケーションを図ることができる。

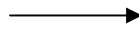
**教育・学習の方法**

専門科目〈研究法〉において、1)の知的能力・技能を身につける。各授業科目で提示された課題を解決する過程で、外国語運用能力、フィールドワーク、コンピュータを使った統計的分析など実践的な分析技法を使ったリサーチメソッドを習得する。とりわけ外国語運用能力に関しては、教養教育の外国語科目で能力を高める。

**評価**

各授業科目での演習・実習、フィールドワークや統計的分析などへの取り組み、およびレポートや研究・学習成果にもとづいて評価する。

○ 実践的能力・技能



**身につく知識・技能・態度等**

1) 現代の多様なメディア状況に対応し、図書館、資料・史料館、インターネットなどを駆使して、教育に関する資料・情報・データを収集できる。その基礎として、情報に関する基礎的知識・技術・態度を学び、情報の収集や処理や発信を適切に行うことができる。

2) 具体的な教育課題に対して、情報収集力や研究手法を応用し、得られた資料ならびに結果を分析的・批判的に吟味できる（メディアリテラシー、クリティカルシンキング）。その基礎として、情報を活用するためのモラルと社会的課題について理解し、説明できる。

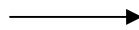
**教育・学習の方法**

1) の能力・技能については、教養教育の情報科目で基礎を習得した上で、専門科目〈領域課題演習〉において各自の関心領域に応じた研究・学習活動を行うことを通して習得する。2) の能力・技能については、教養教育の情報科目で基礎を習得した上で、専門科目〈領域基礎演習〉の各授業科目で提示された課題を解決する過程を通して、さらに〈領域課題演習〉で各自の関心領域に応じた研究・学習活動を行うことを通して習得する。

**評価**

課題への取り組み状況、およびそれに応じたプレゼンテーション、レポートにより評価する。

○ 総合的能力・技能



**身につく知識・技能・態度等**

1) 教育諸現象から問題点を見極め、適切な研究手法を適用し、独自の成果として結論を提起できる研究能力を習得している。

2) 研究成果を正確かつ明瞭に発表するための諸技能を習得している。論拠を明らかにした議論や効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

3) 研究成果への自他の評価を踏まえて、教育に関する研究・実践を発展的に継続することができる。

**教育・学習の方法**

卒業研究において各自が卒業論文を作成することを通して1) 3)の能力・技能を習得する。また、卒業論文構想発表（教育学総合演習 B）および卒業論文の最終的なプレゼンテーションを通して2) の技能・態度を深める。

**評価**

卒業論文作成への取り組み状況、卒業論文と最終的なプレゼンテーションによって評価する。

別紙2 主専攻プログラム モデル体系図

教育学部 教育学プログラム

(専門教育における) 学習の成果	教養教育到達目標	1年		2年		3年		4年		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
知識・理解 1) 教育哲学、日本東洋教育史、西洋教育史、教育社会学、教育方法学、社会教育学、教育行政学、比較教育学、教育経営学、幼児教育学、高等教育学などの教育関連諸科学の基礎を習得している。	人類や社会が抱える歴史的・現代的課題について、多角的な視点から説明できる。	パッケージ別科目(○)	パッケージ別科目(○)							
		領域科目(○)	領域科目(○)							
		日本東洋教育史(○)	教育哲学(○)		高等教育概論(○)					
		社会教育学(○)	西洋教育史(○)		教育学総合演習A(◎)					
		教育行政学(○)	教育社会学(○)							
		幼児教育学(○)	比較教育学(○)							
知的能力・技能 1) 外国語運用能力、統計分析、観察法、情報処理など、教育学の研究手法の基礎を習得している。	外国語を活用して、口頭や文書で日常的なコミュニケーションを図ることができる。	外国語科目(◎)	外国語科目(◎)	教育学外書講読演習Ⅰ(○)	教育学外書講読演習Ⅱ(○)	教育調査統計法演習(○)	教育学研究法演習Ⅱ(○)			
					教育フィールドワーク演習(○)	教育学研究法演習Ⅰ(○)				
実践的能力・技能 1) 現代の多様なメディア状況に対応し、図書館、資料・史料館、インターネットなどを駆使して、教育に関する情報を収集できる。 2) 具体的な教育課題に対して、情報収集力や研究方法を応用し、得られた資料ならびに結果を分析的・批判的に吟味できる(メディアリテラシー、クリティカルシンキング)。	情報に関する基礎的知識・技術・態度を学び、情報の収集や処理や発信を適切に行うことができる。 情報を活用するためのモデルと社会的課題について理解し、説明できる。	教養ゼミ(◎)				教育哲学課題演習(○)	教育哲学課題演習(○)			
		情報科目(◎)				日本東洋教育史課題演習(○)	日本東洋教育史課題演習(○)			
						西洋教育史課題演習(○)	西洋教育史課題演習(○)			
						教育社会学課題演習(○)	教育社会学課題演習(○)			
						教育方法学課題演習(○)	教育方法学課題演習(○)			
						社会教育学課題演習(○)	社会教育学課題演習(○)			
						教育行政学課題演習(○)	教育行政学課題演習(○)			
						比較教育学課題演習(○)	比較教育学課題演習(○)			
						教育経営学課題演習(○)	教育経営学課題演習(○)			
				情報科目(◎)		教育哲学演習(○)	日本東洋教育史演習(○)	教育哲学課題演習(○)	教育哲学課題演習(○)	
総合的能力・技能 1) 教育諸現象から問題点を見極め、適切な研究方法を適用し、独自の成果として結論を提起できる研究能力を習得している。 2) 研究成果を正確かつ明確に発表するための諸技能を習得している。 3) 研究成果への自他の評価を踏まえて、教育に関する研究・実践を発展的に継続することができる。	論拠を明らかにした議論や効果的なプレゼンテーションを行うことができる。							教育哲学課題研究(○)	教育哲学課題研究(○)	
								日本東洋教育史課題研究(○)	日本東洋教育史課題研究(○)	
									西洋教育史課題研究(○)	西洋教育史課題研究(○)
									教育社会学課題研究(○)	教育社会学課題研究(○)
									教育方法学課題研究(○)	教育方法学課題研究(○)
									社会教育学課題研究(○)	社会教育学課題研究(○)
									教育行政学課題研究(○)	教育行政学課題研究(○)
									比較教育学課題研究(○)	比較教育学課題研究(○)
									教育経営学課題研究(○)	教育経営学課題研究(○)
				教養ゼミ(◎)					教育学総合演習B(◎)	卒業論文(◎)
								卒業論文(◎)		

教養科目

専門基礎

専門科目

卒業論文

(◎)必修科目

(○)選択必修科目

(△)選択科目

## 教養教育科目履修基準表

## 第五類 教育学系コース（教育学プログラム）

区分	科目区分	要修得単位数	授業科目等	単位数	履修区分	履修セメスター(注1)													
						1年次		2年次		3年次		4年次							
						1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ						
教養教育科目	教養コア科目	教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	○												
		平和科目	2		2	選択必修	○	○											
		パッケージ別科目	6	決定された1パッケージから3科目	2	選択必修	○	○											
		総合科目	2		2	選択必修			○	○									
	共通科目	外国語科目	英語 (注2)	コミュニケーション基礎	2	コミュニケーション基礎Ⅰ	1	必修	○										
					2	コミュニケーション基礎Ⅱ	1			○									
			英語 (注3)	コミュニケーションⅠ	4	コミュニケーションⅠA	1	選択必修	○										
					4	コミュニケーションⅠB	1		○										
				コミュニケーションⅡ	4	コミュニケーションⅡA	1			○									
					4	コミュニケーションⅡB	1			○									
		上記4科目から2科目以上																	
		英語 (注2)	コミュニケーションⅢ	2	コミュニケーションⅢA	1	選択必修				○	○							
				2	コミュニケーションⅢB	1													
				2	コミュニケーションⅢC	1													
				上記3科目から2科目															
初修外国語 (ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語、アラビア語のうちから1言語選択)	4	ベーシック外国語Ⅰから2科目	1	1	選択必修	○													
			1			ベーシック外国語Ⅱから2科目	1		○										
情報科目	2	(注4)	2	2	選択必修	○													
領域科目	(18)	すべての領域から(注5)	1又は2	1又は2	選択必修	○	○	○	○										
健康スポーツ科目	2	(注6)	1又は2	1又は2	選択必修	○	○												
基盤科目	(0)		1～3	1～3	自由選択	○	○	○	○										
計	46																		

注1：○印は標準履修セメスターを表している。なお、当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するセメスターが異なる場合があるので、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。

注2：短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「マルチメディア英語演習」の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。詳細については、学生便覧の教養教育の英語に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。

注3：時間割編成の都合上、1セメスターは「コミュニケーションⅠA」及び「コミュニケーションⅠB」が、2セメスターは「コミュニケーションⅡA」及び「コミュニケーションⅡB」が指定されている。

注4：1セメスター開設の「情報活用基礎」を履修すること。なお、「情報活用基礎」の単位を修得できなかった場合のみ、2セメスター開設の「情報活用演習」を履修することができる。

注5：・教育職員免許状を取得するためには、「日本国憲法」の2単位を修得する必要がある。

・自然科学領域の「コンピュータ・プログラミング」又は「情報活用研究」から1科目2単位の履修を要望する。

・人文科学領域の「哲学A」、「哲学B」、「倫理学A」又は「倫理学B」及び複合領域の「文化人類学A」又は「文化人類学B」から1科目2単位の履修を要望する。

・初修外国語で選択した言語と同一言語の「インテンシブ外国語」の履修を要望する。

・修得した基盤科目の単位及び要修得単位数を超えて修得した健康スポーツ科目の単位を算入することができる。ただし、基盤科目にあつては6単位、健康スポーツ科目にあつては1単位を限度とする。

注6：教育職員免許状を取得するためには、講義科目（2単位）と実習科目（1単位）を各1科目（合計3単位）修得する必要がある。



## 学部履修基準

### 第五類（人間形成基礎系）

#### ○ 教育学系コース（教育学プログラム）

科目区分等			要修得単位数		開設学部		
教 養 教 育	教養コア科目	教 養 ゼ ミ	2		4 6	総 合 科 学 部 ほ か	
		平 和 科 目	2				
		パ ッ ケ ー ジ 別 科 目	6				
		総 合 科 目	2				
	共 通 科 目	外国語科目	英 語	8			
			初修外国語	4			
		情 報 科 目	2				
		領 域 科 目	( 1 8 )				
	健 康 ス ポ ー ツ 科 目	2					
	基 盤 科 目	( 0 )					
専 門 教 育	専 門 基 礎 科 目	選 択 科 目	1 6	4 6	8 2	教 育 学 部 ほ か	
	専 門 科 目		2 0				
	専 門 選 択 科 目		2 8				
	卒 業 研 究		8				
合 計			1 2 8				

### 専門教育科目履修基準

#### <履修上の注意>

- 『専門基礎科目』の選択科目は16単位以上、専門科目は20単位以上、合わせて46単位修得すること。
- 『専門科目』は、〈研究法〉と〈領域基礎演習〉を合わせて16単位以上、〈領域課題演習〉から2単位、「教育学総合演習A」1単位、「教育学総合演習B」1単位を修得すること。
- 『卒業研究』の8単位は、課題研究から2単位と「卒業論文」6単位を充てること。
- 〈領域課題演習〉は、『卒業研究』における研究領域に応じて科目（2単位）を選択履修することが望ましい。
- 『専門選択科目』欄の副専攻プログラム及び特定プログラムの修得単位数は、28単位まで認める。

第五類 教育学系コース（教育学プログラム）

○印は必修

区分	授業科目	開単 位 設 数	学期別週授業時数								免許法該当科目	備考		
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ				
専 門 基 礎 科 目	教育哲学	2		2								「哲学、倫理学、宗教学」、 「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
	日本東洋教育史	2	2									「日本史及び外国史」		
	西洋教育史	2		2								〃		
	教育社会学	2		2								「社会学、経済学」、 「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
	教育方法学	2		2								教育課程の意義及び編成の方法		
	社会教育学	2	2									教科又は教職に関する科目		
	教育行政学	2	2									「法学、政治学」、 「法学（国際法）、政治学（国際政治）」		
	比較教育学	2		2								教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		
	教育経営学	2		2								〃		
	幼児教育学	2	2									幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
	高等教育概論	2				2								
専 門 科 目	研究法	教育学外書講読演習Ⅰ	2		2									
		教育学外書講読演習Ⅱ	2			2								
		教育調査統計法演習	4				4							
		教育フィールドワーク演習	2			2								
		教育学研究法演習Ⅰ	2				2							
		教育学研究法演習Ⅱ	2					2						
	領域基礎演習	教育哲学演習	2		2								「哲学、倫理学、宗教学」、 「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	
		日本東洋教育史演習	2			2							「日本史及び外国史」	
		西洋教育史演習	2		2								〃	
		教育社会学演習	2		2								「社会学、経済学」、 「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	
		教育方法学演習	2		2								教育の方法及び技術	
		社会教育学演習	2			2							教科又は教職に関する科目	
		教育行政学演習	2			2							「法学、政治学」、 「法学（国際法）、政治学（国際政治）」	
		比較教育学演習	2		2								教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	
		教育経営学演習	2		2								〃	
	幼児教育学演習	2			2							幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
	領域課題演習	教育哲学課題演習	1・1				2	2						
		日本東洋教育史課題演習	1・1				2	2						
		西洋教育史課題演習	1・1				2	2						
教育社会学課題演習		1・1				2	2							



## 到達目標評価項目と評価基準の表

## ○ 知識・理解

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ ( ) 内は履修セメスター
1) 教育哲学、日本東洋教育史、西洋教育史、教育社会学、教育方法学、社会教育学、教育行政学、比較教育学、教育経営学、幼児教育学、高等教育学などの教育関連諸科学の基礎を習得している。	教育関連諸科学の基本的な諸概念や理論を理解し、多様な観点を総合化できるとともに、自らの意見・立場を適切に位置づけることができる	教育関連諸科学の基本的な諸概念や理論を理解し、多様な観点を総合化することができる	教育関連諸科学の基本的な諸概念や理論を理解している	教育哲学(2) 日本東洋教育史(1) 西洋教育史(2) 教育社会学(2) 教育方法学(2) 社会教育学(1) 教育行政学(1) 比較教育学(2) 教育経営学(2) 幼児教育学(1) 高等教育概論(4) 教育学総合演習A(4)

## ○ 知的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ ( ) 内は履修セメスター
1) 外国語運用能力、統計分析、観察法、情報処理など、教育学の研究手法の基礎を習得している。	幾つかの研究手法に関して基本的知識を持っており、適切な手法を選択して自らの調査研究を遂行できる	幾つかの研究手法に関して基本的知識を持っており、その手法を用いて与えられた課題を遂行できる	幾つかの研究手法に関して基本的知識を持っている	教育学外書講読演習Ⅰ(3) 教育学外書講読演習Ⅱ(4) 教育調査統計法演習(5) 教育フィールドワーク演習(4) 教育学研究法演習Ⅰ(5) 教育学研究法演習Ⅱ(6)

○ 実践的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ ( ) 内は履修セメスター
1) 現代の多様なメディア状況に対応し、図書館、資料・史料館、インターネットなどを駆使して、教育に関する情報を収集できる。	自らの知識と理解を広げるために、図書館、資料・史料館、インターネットなど多様なメディアを駆使して、広範な領域から一次および二次情報を収集できる	自らの知識と理解を広げるために、図書館、資料・史料館、インターネットなど幾つかのメディアを駆使して、関連情報を収集できる	図書館、資料・史料館、インターネットなどの利用法を知っており、授業等における参考文献・情報を収集できる	教育哲学課題演習(5・6) 日本東洋教育史課題演習(5・6) 西洋教育史課題演習(5・6) 教育社会学課題演習(5・6) 教育方法学課題演習(5・6) 社会教育学課題演習(5・6) 教育行政学課題演習(5・6) 比較教育学課題演習(5・6) 教育経営学課題演習(5・6)
2) 具体的な教育課題に対して、情報収集力や研究手法を応用し、得られた資料ならびに結果を分析的・批判的に吟味できる(メディアリテラシー、クリティカルシンキング)。	具体的な課題に情報収集力や研究手法を応用し、得られた資料ならびに結果をまとめ、その内容を分析的・批判的に吟味できる	具体的な課題に情報収集力や研究手法を応用し、得られた資料ならびに結果をまとめ、その内容を論理的に正確に読解できる	具体的な課題に情報収集力や研究手法を応用し、得られた資料ならびに結果をまとめることができる	教育哲学演習(3) 日本東洋教育史演習(4) 西洋教育史演習(3) 教育社会学演習(3) 教育方法学演習(3) 社会教育学演習(4) 教育行政学演習(4) 比較教育学演習(3) 教育経営学演習(3) 幼児教育学演習(4) 教育哲学課題演習(5・6) 日本東洋教育史課題演習(5・6) 西洋教育史課題演習(5・6) 教育社会学課題演習

				習(5・6) 教育方法学課題演習(5・6) 社会教育学課題演習(5・6) 教育行政学課題演習(5・6) 比較教育学課題演習(5・6) 教育経営学課題演習(5・6)
--	--	--	--	--

○ 総合的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※( )内は履修セメスター
1) 教育諸現象から問題点を見極め、適切な研究方法を適用し、独自の成果として結論を提起できる研究能力を習得している。	教育諸現象から問題点を見極め、適切な研究方法の適用と資料吟味を通して説得力のある議論を展開し、独自の成果として結論を導くことができる	設定した課題について、適切な研究方法と資料吟味を通して、整合性のある議論を展開し、適切に結論を導くことができる	設定した課題について整合性のある議論を展開することができる	教育哲学課題研究(7・8) 日本東洋教育史課題研究(7・8) 西洋教育史課題研究(7・8) 教育社会学課題研究(7・8) 教育方法学課題研究(7・8) 社会教育学課題研究(7・8) 教育行政学課題研究(7・8) 比較教育学課題研究(7・8) 教育経営学課題研究(7・8)
2) 研究成果を正確かつ明瞭に発表するための諸技能を習得している。	口頭や文章で研究成果を正確かつ明瞭にプレゼンテーションすることができ、質疑応答において生産的なコミュニケーションをおこなうことができる	口頭や文章で研究成果を正確かつ明瞭にプレゼンテーションすることができ、質疑応答において適切にコミュニケーションすることができる	口頭や文章で研究成果を正確かつ明瞭にプレゼンテーションすることができる	教育学総合演習B(6) 卒業論文
3) 研究成果への自他の評価を踏まえて、教育に関する研究・実践を発	自らの研究成果の問題点を把握し新たな課題を見出すことがで	自らの研究成果の問題点を把握でき、新たな課題を見出すことができ	自らの研究成果の問題点を把握できる	卒業論文

展的に継続することができる。	き、その課題の解決について展望を持つことができる	る		
----------------	--------------------------	---	--	--





区分	授業科目	開設 単位	学期別週授業時数								到達目標の評価項目																				備考					
			セメスター								A(知識・理解)							B(知的能力・技能)							C(実践的能力・技能)							D(総合的能力・技能)				
			1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5
卒業 研究	西洋教育史課題研究	1・1							2	2	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○	○	/	/	/	
	教育社会学課題研究	1・1							2	2	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○	○	/	/	/	
	教育方法学課題研究	1・1							2	2	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○	○	/	/	/	
	社会教育学課題研究	1・1							2	2	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○	○	/	/	/	
	教育行政学課題研究	1・1							2	2	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○	○	/	/	/	
	比較教育学課題研究	1・1							2	2	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○	○	/	/	/	
	教育経営学課題研究	1・1							2	2	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○	○	/	/	/	
	卒業論文	6									/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○	○	/	/	/	

## 担当教員リスト

担当教員名	担当授業科目等	備考
坂越 正樹	担当授業科目：教育哲学演習 教育哲学課題演習 教育哲学課題研究 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A502 E-mail アドレス：sakakosi@hiroshima-u.ac.jp	
丸山 恭司	担当授業科目：教育哲学 教育学外書講読演習 I 教育哲学課題演習 教育哲学課題研究 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A501 E-mail アドレス：yasumaru@hiroshima-u.ac.jp	
鈴木 理恵	担当授業科目：日本東洋教育史 日本東洋教育史演習 日本東洋教育史課題演習 日本東洋教育史課題研究 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A508 E-mail アドレス：suzukrie@hiroshima-u.ac.jp	
某	担当授業科目：西洋教育史 西洋教育史演習 西洋教育史課題演習 西洋教育史課題研究 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A509 E-mail アドレス：	

担当教員名	担当授業科目等	備考
山崎 博敏	担当授業科目：教育社会学演習 教育社会学課題演習 教育社会学課題研究 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A5 1 1 E-mail アドレス：hyamasak@hiroshima-u.ac.jp	
山田 浩之	担当授業科目：教育社会学 教育調査統計法演習 教育学研究法演習 I 教育社会学課題演習 教育社会学課題研究 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A5 1 0 E-mail アドレス：yam@hiroshima-u.ac.jp	
深澤 広明	担当授業科目：教育方法学演習 教育学外書講読演習 II 教育方法学課題演習 教育方法学課題研究 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A6 0 1 E-mail アドレス：hirofuka@hiroshima-u.ac.jp	
吉田 成章	担当授業科目：教育方法学 教育学研究法演習 I 教育方法学課題演習 教育方法学課題研究 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A6 0 2 E-mail アドレス：nariakira@hiroshima-u.ac.jp	
小池 源吾	担当授業科目：社会教育学 社会教育学演習 社会教育学課題演習 社会教育学課題研究 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A6 0 3 E-mail アドレス：gkoike@hiroshima-u.ac.jp	

担当教員名	担当授業科目等	備考
久井 英輔	担当授業科目：社会教育学 社会教育学演習 社会教育学課題演習 社会教育学課題研究 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A6 0 4 E-mail アドレス：未定	
河野 和清	担当授業科目：教育行政学 教育フィールドワーク演習 教育行政学課題演習 教育行政学課題研究 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A6 1 1 E-mail アドレス：kazukiyo@hiroshima-u.ac.jp	
古賀 一博	担当授業科目：教育行政学演習 教育行政学課題演習 教育行政学課題研究 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A6 1 2 E-mail アドレス：kazukoga@hiroshima-u.ac.jp	
大塚 豊	担当授業科目：比較教育学 比較教育学演習 比較教育学課題演習 比較教育学課題研究 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A6 1 4 E-mail アドレス：yotsuka@hiroshima-u.ac.jp	
曾余田 浩史	担当授業科目：教育経営学 教育経営学演習 教育経営学課題演習 教育経営学課題研究 卒業論文 研究室の場所：教育学部 A6 1 5 E-mail アドレス：hsoyoda@hiroshima-u.ac.jp	

担当教員名	担当授業科目等	備考
七木田 敦	担当授業科目：幼児教育学演習 研究室の場所：教育学部 B709 E-mail アドレス：nanakida@hiroshima-u.ac.jp	
中坪 史典	担当授業科目：幼児教育学 研究室の場所：教育学部 B709 E-mail アドレス：nakatsub@hiroshima-u.ac.jp	
村澤 昌崇	担当授業科目：高等教育概論 研究室の場所：高等教育研究開発センター 107 E-mail アドレス：mrswn@hiroshima-u.ac.jp	